

能登半島へのアクセス確保

1/30 7時00分時点
国土交通省 道路局

(主な対応状況)

- 1/2
 - ・北陸道などの高速道路(NEXCO・公社管理)の通行止め解除
 - ・能登半島へのアクセス道路の緊急復旧に着手
 - ・普通車について、輪島・珠洲市までアクセス確保(大型車について、1/4確保)
- 1/9
 - ・緊急復旧により、半島内の幹線道路の約8割が通行可(1/15 約9割まで進捗)
- 1/14~
 - ・総理大臣の指示を受け、権限代行に関する調整に着手
- 1/23
 - ・国が石川県に代わり本格的な災害復旧を代行することを決定

- : 能越自動車道・のと里山海道
- : 交通規制区間(一方通行・速度規制)
- : 通行止め区間
- : 一般道(奥能登2市2町へのアクセスルート)

- 権限代行区間:
- 国道249号の沿岸部
 - のと里山海道を含む能越自動車道の石川県管理区間

穴水方面 通行可
(一方通行・40km/h規制)

緊急車両等のみ通行可
(一方通行・40km/h規制)

北向きは
緊急車両等のみ通行可
(40km/h規制)

緊急復旧の予定

北向き一方通行へ
交通切り替え

通行止め解除

2月上旬
1車線通行確保
(北向き)



被災状況

能越自動車道・のと里山海道

(写真①能越道(のと里山空港IC~穴水IC)
写真②のと里山海道(穴水IC~別所岳SA)
写真③のと里山海道(別所岳SA~横田IC))

写真①

写真②

写真③

緊急復旧(道路啓開)の状況や交通状況等を、web地図上で閲覧できる「道路復旧見える化マップ」を公表(1月12日より)

地図上のアイコンをクリックすると情報や現地の写真が表示されます。
マウスのホイールで地図上に表示する情報を選択できます。
緊急復旧(道路啓開)が完了した道路や、道路の交通状況を色で示しています。

<機能情報>
・七尾市から輪島市・珠洲市への所要時間・速度状況(毎日更新)
・道路の緊急復旧済み区間、作業状況
・道路被災状況(航空測量会社)の空撮画像を掲載

二次元コードは ↓コチラ

URL : <https://www.mlit.go.jp/road/r6noto/index2.html>

○七尾市(徳田大津)からの所要時間

1/27 (8時台発)	穴水町 約1時間	輪島市 約2.5時間	珠洲市 約2.5時間
1/28 (8時台発)	穴水町 約0.5時間	輪島市 約1.5時間	珠洲市 約2時間
1/29 (8時台発)	穴水町 約1.5時間	輪島市 約2時間	珠洲市 約3時間

※所要時間は「道路復旧見える化マップ」でも掲載

令和6年能登半島地震 能登半島 道路の緊急復旧の状況

令和6年1月30日(火)7時00分時点
国土交通省・石川県

- 1/2から幹線道路の緊急復旧に着手。24時間体制を構築し、地元を中心とした各建設業協会や(一社)日本建設業連合会の応援を受け、緊急復旧作業を順次実施。
- 沿岸部では被災箇所が多数確認されているため、自衛隊と連携し、内陸側・海側の両方からくしの歯状の緊急復旧も進めており、10方向で通路を確保。
- 孤立集落は1/19に実質的に解消。引き続き、水道・電力などの要望、自治体の要請を踏まえ、緊急復旧を実施。

主要な幹線道路における緊急復旧の進捗率

	1/7 7時	現在
半島内の 主要な幹線道路	約6割 ⇒	約9割
うち国道249号 沿岸部※1	約2割 ⇒	約8割 (迂回路を考慮:約9割)
沿岸部への到達 ※2	6方向 ⇒	10方向

※1: 輪島市門前町～珠洲市役所、※2: 内陸側・海側の両方

孤立地区数の推移※3

1月5日8時	33地区 (最大3,345人)
1月29日16時	実質的に解消 (3地区10人)※4

※3: 内閣府防災資料より
※4: 避難の意向なし

生活インフラ復旧に必要な重要箇所の緊急復旧状況※5

優先復旧の要望数	43箇所
うち完了数	24箇所(約6割)

※5: 水道、電力、通信、放送事業者より聞き取り

写真③ 国道249号法面崩落



写真④ 国道249号大谷ループ橋



写真⑤ 国道249号大谷トンネル



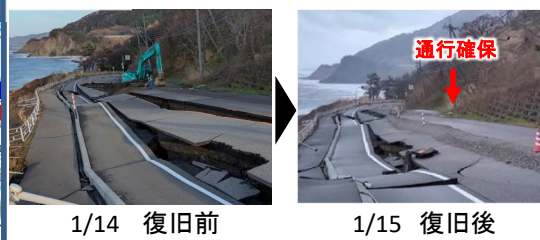
凡例

- (青線): 国交省対応(走行可能)
- (茶線): 県対応(走行可能・この他にも作業を実施)
- (緑線): 自衛隊対応(走行可能)
- (赤線): 自動車専用道路(走行可能)
- (黒線): 自動車専用道路(走行不可)
- ✕: 被災規模 大
- : 孤立集落(内閣府防災資料)
- ★: 国復旧業者作業箇所
- : 沿岸部への到達点

写真① 国道249号中屋トンネル



写真② 国道249号緊急復旧完了



金沢から穴水方向のみ通行可 ※ 一般車両通行止め

令和6年能登半島地震に伴う河川・海岸の対応状況等について

令和6年1月30日 12:00時点

国土交通省 水管理・国土保全局

- 国管理河川では、5県（新潟、富山、石川、福井、長野）に所在する12水系17河川で点検を完了。4水系4河川16箇所では施設の損傷等を確認、信濃川（しなのがわ）水系信濃川における緊急復旧工事の完了を含め、必要な応急対策は実施済。
- 県管理河川では、6県（新潟、富山、石川、福井、長野、岐阜）が管理する122水系554河川のうち、121水系553河川で点検完了（余震に伴う再点検は随時実施）、残る1河川は道路啓開後に点検予定。4県（新潟、富山、石川、福井）が管理する64水系108河川で施設の損傷等を確認、応急対策を順次実施中（石川県は継続中、他は実施済）。
- 石川県管理の河原田川（かわらだがわ）水系河原田川、山田川（やまだがわ）水系山田川において、土砂崩れによる河道埋塞が発生し家屋等が浸水。河原田川については土砂災害対策と一体となった本格的な復旧工事を権限代行等により国が実施中。山田川については流路確保工事中。
- ダムでは、点検対象ダム96ダムの全てで点検終了。うち94ダムは異常なし。2ダム（石川県管理）で損傷を確認。専門家（国総研）により、計測データや画像等を基にした遠隔指導に加え、1月11日にヘリにて現地入りし技術支援を実施。応急対策は実施済。
- 海岸では、全国の点検対象128海岸のうち、126海岸で点検完了、石川県の2海岸は点検実施中。うち石川県管理の宝立正院（ほうりゅうしょういん）、三崎（みさき）等の10海岸において、堤防護岸の損壊等を確認。応急対策の実施方法について検討中。

河川の被害状況: 国管理 県管理
 ダムの被害状況: 県管理
 海岸の被害状況: 県管理

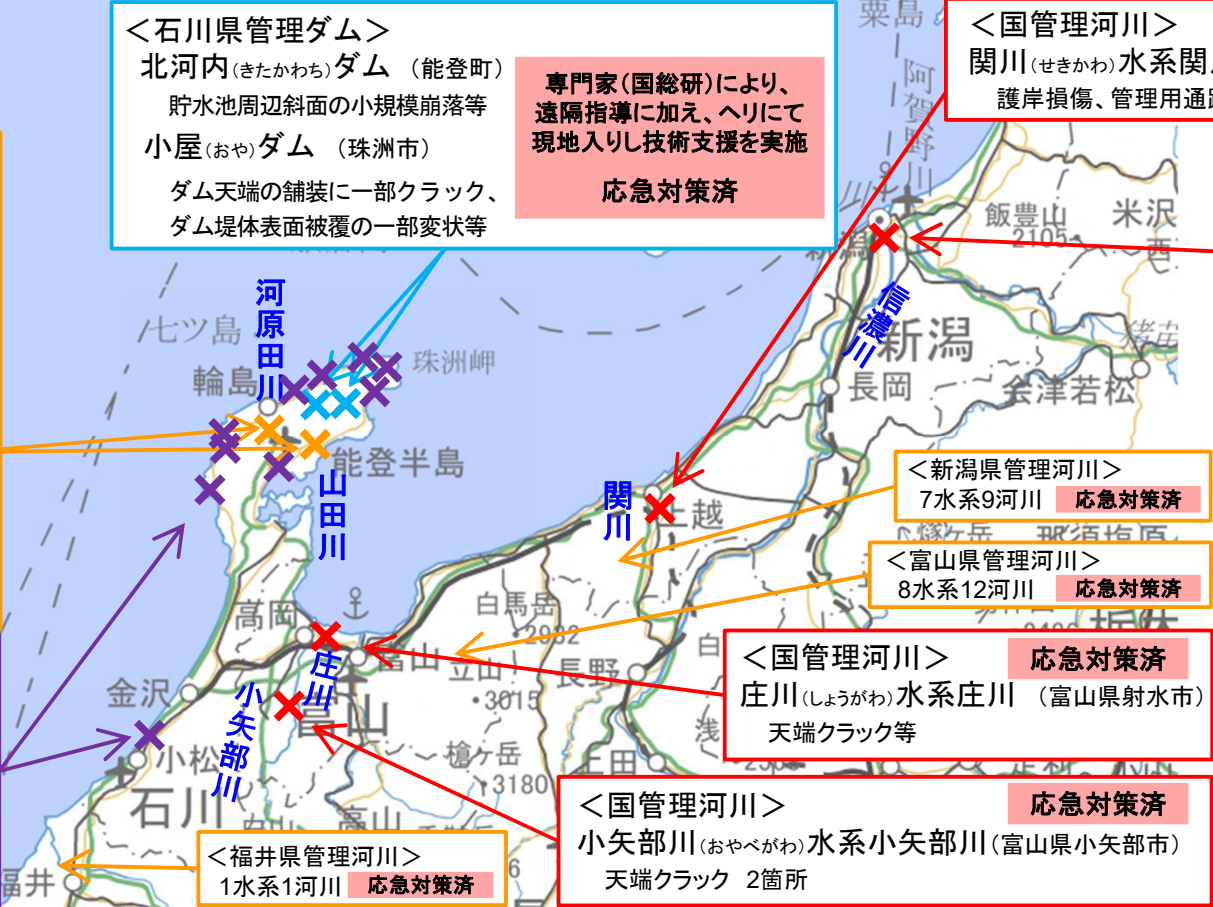
<石川県管理河川>
 48水系86河川 応急対策実施中

河原田川
 河原田川（かわらだがわ）水系河原田川（輪島市）
 河道埋塞 **土砂災害対策と一体となった本格的な復旧工事を権限代行等により国が実施中**

山田川
 山田川（やまだがわ）水系山田川（能登町）
 河道埋塞 **流路確保工事中**

<石川県管理海岸>
 10海岸 堤防護岸の損壊等 応急対策の実施方法を検討中



<国管理河川>
 信濃川（しなのがわ）水系信濃川（新潟県新潟市、長岡市）
 堤防沈下、天端クラック等 10箇所
応急対策済

令和6年能登半島地震による土砂災害対応状況

○石川県にTEC-FORCEを派遣し、土砂災害発生箇所及び砂防関係施設等の調査を実施中。新潟、富山、福井、長野、岐阜の砂防関係施設の点検は完了。
 ○石川県では6河川(14箇所)で河道閉塞等を確認。国は県と連携し、TEC-FORCEによる調査や監視カメラを設置するなど、監視体制を構築し自治体にも監視映像を提供。
 ○土砂災害発生箇所のうち、上記の河道閉塞箇所等、不安定な状態で斜面や溪流内に土砂・流木が堆積しており、今後の降雨により二次災害が発生するおそれが高い箇所において、国による緊急的な砂防工事等を実施。



土砂災害発生件数
226件

【被害状況】

家屋被害：全壊	：43戸
半壊	：11戸
一部損壊	：12戸

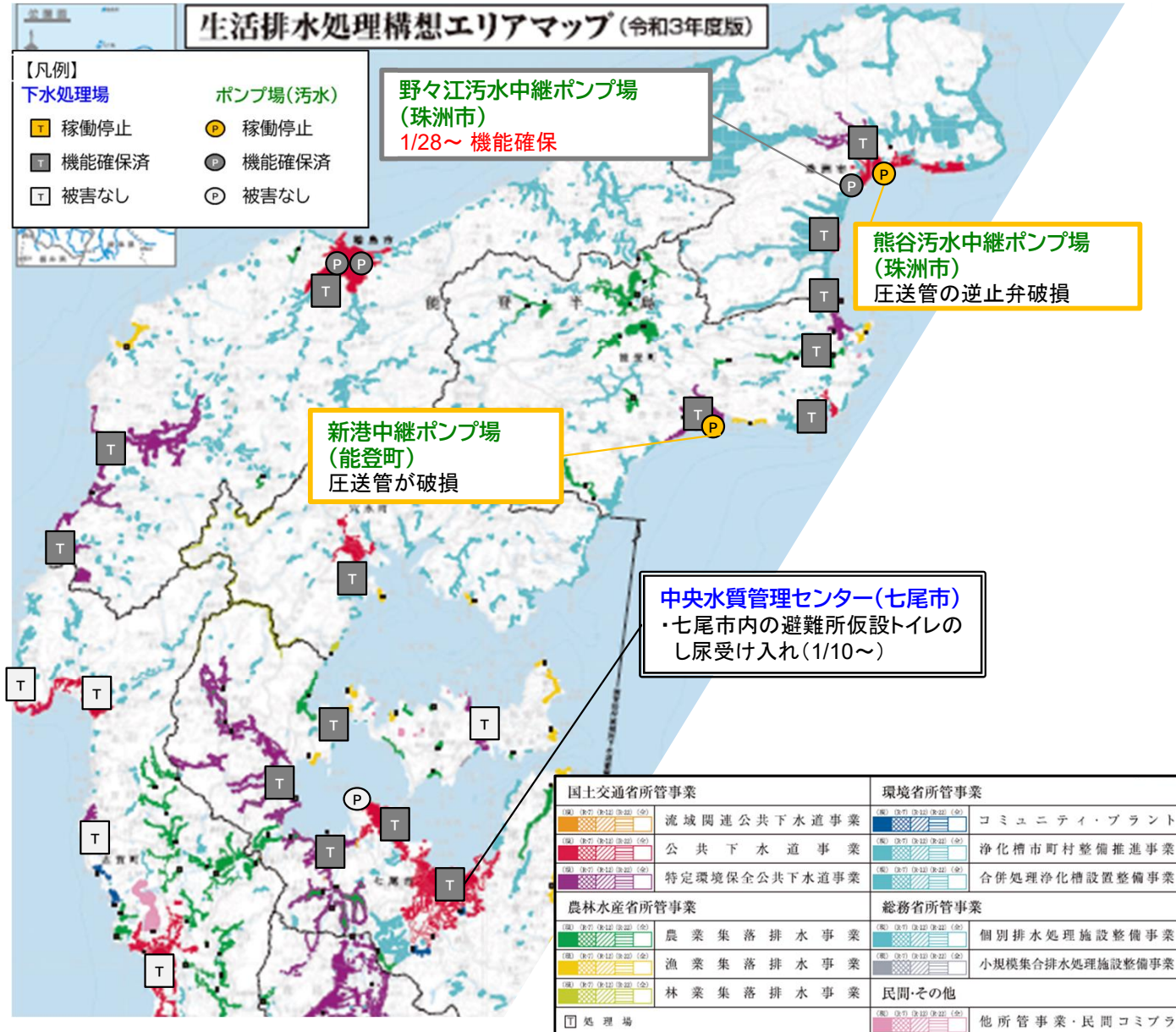
石川県	196件
新潟県	17件
富山県	13件

※県から土砂災害として報告された件数、判明した戸数。
 ※これは速報値であり、今後数値等が変わる可能性があります。

令和6年能登半島地震に伴う下水道施設の被害状況(石川県)

令和6年1月30日
14:00時点
国土交通省

- 特に被害の大きい能登地方6市町の下水道の復旧については、水道の復旧状況に遅れることがないように、上下水道一体となって早期復旧に向けた支援を実施(1/8～)
- 日本下水道事業団により、稼働停止の下水処理場、ポンプ場の緊急支援を実施(1/7～)



○下水道施設の復旧状況

	1/6 14:00時点	現在
下水処理場稼働停止	9箇所	⇒ 0箇所
ポンプ場稼働停止	4箇所	⇒ 2箇所

○下水道管路の状況

		1/22 12:30時点	現在
自治体名	全管路延長 (km)	被害なし・流下機能確保 (km)	
七尾市	231	153	⇒ 157 (68%)
輪島市	180	21	⇒ 52 (29%)
珠洲市	104	5	⇒ 6 (6%)
志賀町	148	135	⇒ 137 (93%)
穴水町	39	9	⇒ 9 (24%)
能登町	79	47	⇒ 45 (58%)
6市町計	781	369	⇒ 406 (52%)
石川県計	6,342	5,734	⇒ 5,840 (92%)

502km(内6市町375km)(流下機能の有無を確認中)
※流下機能なしが確認された箇所では、バイパス管の設置などの
の応急対応により流下機能を確保する。
注1 管路延長の再精査に伴う減

応急的な住まいの確保

○ 公営住宅等の空室提供

公営住宅：全都道府県にて約8,800戸確保
入居決定戸数：約470戸（うち石川県内237戸）
UR賃貸住宅：全国で300戸確保 ※高齢者からの生活相談に対応
国家公務員宿舎：石川県内にて139戸確保
使用許可戸数：41戸

○ 賃貸型応急住宅（みなし仮設）

石川県・富山県・新潟県の33市町村にて受付
石川県内の提供可能戸数：約3,800戸
新潟県、富山県内の提供可能戸数：約15,000戸



プレハブ住宅（設置例）



木造仮設住宅（設置例）



ムービングハウス（設置例）



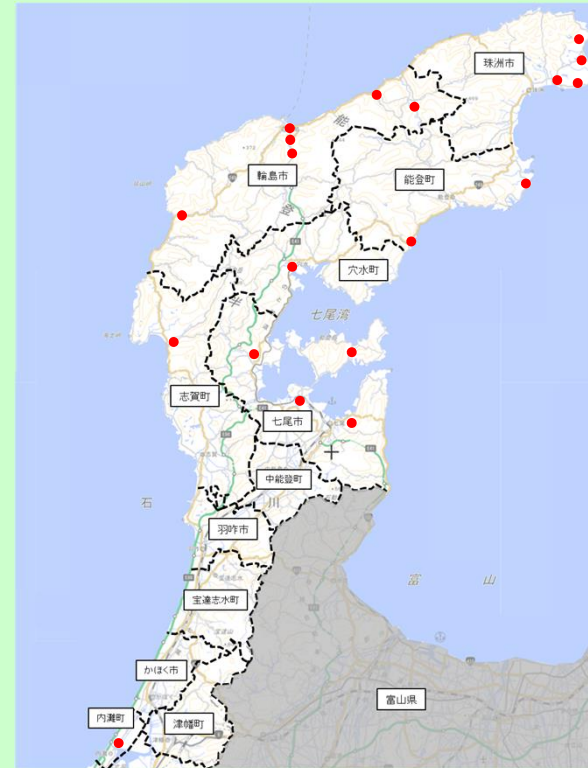
トレーラーハウス（設置例）

○ 建設型応急住宅

石川県：3月末までに約3,000戸着工の見通し

	七尾市	輪島市	珠洲市	内灘町	志賀町	穴水町	能登町	7市町
着工 (1月末見込み)	(1/20～) 180戸	(1/12～) 548戸	(1/12～) 303戸	(1/31～) 23戸	(1/26～) 20戸	(1/15～) 76戸	(1/15～) 98戸	1,248戸

※見込みを含むため変動する可能性がある



建設型応急住宅の立地

恒久的な住まいの確保

- 住宅金融支援機構の災害復興住宅融資制度
- 自力での再建等が困難な被災者への公営住宅の整備

- 被災住宅の補修等に関する電話相談を受け付けるフリーダイヤルを開設
『令和6年能登半島地震による被災住宅補修等相談ダイヤル』0120-330-712
- 被災自治体にて被災住宅に関する専門家の相談窓口を開設
- 「住まい再建事業者検索サイト」にて被災した住宅の補修工事等が可能な事業者を情報提供
- 公営住宅等の空室提供と賃貸型応急住宅の提供に係る問い合わせ先等を情報提供

令和6年能登半島地震の影響による鉄道の状況について

A のと鉄道 七尾線(33.1km)

○運休区間：七尾駅～穴水駅間(全線) 和倉温泉駅～能登中島駅間は、2月中旬の運転再開を目指して、JR西日本において復旧工事中※1
能登中島駅～穴水駅間の運転再開見込みは、復旧工事の進捗を踏まえ公表予定※1

1月9日～10日 現地調査実施(合計12名):TEC-FORCE 5名、鉄道・運輸機構 鉄道災害調査隊(RAIL-FORCE) 7名

1月18日～ TEC-FORCE 3名を のと鉄道に派遣・常駐。- 復旧作業支援のための連絡調整等

1月29日～ 七尾駅～穴水駅間で、代行バスを運行開始※2

B JR西日本 七尾線(59.5km)

○運休区間：七尾駅～和倉温泉駅間(5.1km) 七尾駅～和倉温泉駅間は、2月中旬の運転再開を目指して復旧工事中※1

1月11日 現地調査実施:TEC-FORCE 5名

※1 1月19日のと鉄道、JR西日本より発表

※2 1月26日のと鉄道より発表

◎1月19日 鉄道等の災害復旧に係る事業間連携に関する連絡調整会議(省内関係局、鉄道事業者)を開催

◎1月25日 鉄道等の災害復旧に係る事業間連携に関する地方連絡調整会議(北陸地整局、北信運輸局、石川県、鉄道事業者等)を開催

○1月15日以降に再開した路線
・JR西日本 七尾線(高松駅～羽咋駅間) (15日始発から)
・JR西日本 七尾線(羽咋駅～七尾駅間) (22日始発から)

— :運休区間
— :再開区間

【のと鉄道】



※A1、A2、A3の写真はのと鉄道提供

【JR七尾線】



※A4、B1～B6の写真はJR西日本提供



令和6年能登半島地震による能登半島港湾の現況と対応方針

1月30日10:00時点

- 能登地域の港湾では、港湾全体に被害が及んでおり、石川県からの要請に基づき、七尾港、輪島港、飯田港、小木港、宇出津港、穴水港の計6港について、港湾施設の一部管理を国土交通省にて実施。
- このうち、支援物資輸送の**中核となる水深4.5m以深の9岸壁が利用可能**であることを確認(条件付きで利用可能なものを含む)。(その他、小型船用の水深4.5m未満の物揚場は、63施設が利用可能(条件付きで利用可能なものを含む))
- 引き続き、海上ルートによる支援物資の円滑な輸送の実現に資するよう、利用条件の解消に向け、**応急復旧作業を進めるとともに、大規模災害復興法に基づく代行復旧も含め、関係者との調整を進める。**

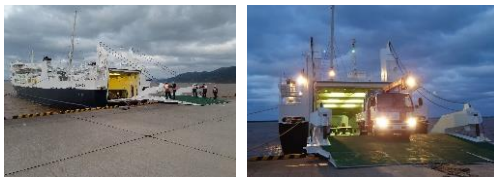
輪島港 (最大水深7.5m、延長220m)

1岸壁が利用可能

【主な利用条件と対応状況】

- ・地震による地盤隆起により、岸壁水深が最大1.5m程度浅くなっている。
→回復には抜本的な復旧工事が必要であり、水深6mの岸壁として運用。

- ・岸壁法線から約13m離れた位置に岸壁法線と平行して最大2mの段差が生じていることから、船舶へのアクセス経路が限られている。
→当面、5日に応急復旧したアクセス経路で物資を搬送。一部の拡幅作業を完了(17日)。



RORO船による支援物資輸送(10日)

穴水港 (最大水深4.0m、延長187m)

【主な利用条件と対応状況】

- ・強い陸風が吹くときは離岸が必要となる場合がある。
→回復には抜本的な復旧工事が必要。当面、注意して運用。

宇出津港 (最大水深4.0m、延長205m)

【主な利用条件と対応状況】

- ・岸壁法線に近い位置は重量物を置くことができないものがある。(一般車両は走行可能)
→回復には抜本的な復旧工事が必要。当面、岸壁法線の近くに重量物を置かないように運用。

小木港 (最大水深5.0m、延長160m)

5岸壁中4岸壁が利用可能

水深4.5m岸壁 × 4

【主な利用条件と対応状況】

- ・一部の岸壁で、水深が最大1m程度浅くなっている。
→当面、水深3.5m程度の物揚場として運用。

水深5.0m岸壁は利用不可 → 応急復旧を準備中。

飯田港 (最大水深5.5m、延長100m)

2岸壁中1岸壁が利用可能

水深4.5m岸壁

【主な利用条件と対応状況】

- ・航路内に小型船が沈没しているため、航行時に注意が必要。
→泊地内の沈没船の撤去完了(18日)。引き続き、浚渫作業実施中。
- ・アクセス経路にうねりが生じている。
→応急復旧を実施し、作業完了(9日)。

水深5.5m岸壁は利用不可 → 抜本的な復旧工事が必要



民間2船による支援物資輸送(11日)

七尾港 (最大水深11.0m、延長260m)

8岸壁中3岸壁が利用可能

水深11.0m岸壁

【主な利用条件と対応状況】

- ・液状化の影響により、車両が走行できないアクセス経路がある。
→応急復旧を実施し、車両の走行経路を確保(12日)。

水深9.0m岸壁、水深7.5m岸壁

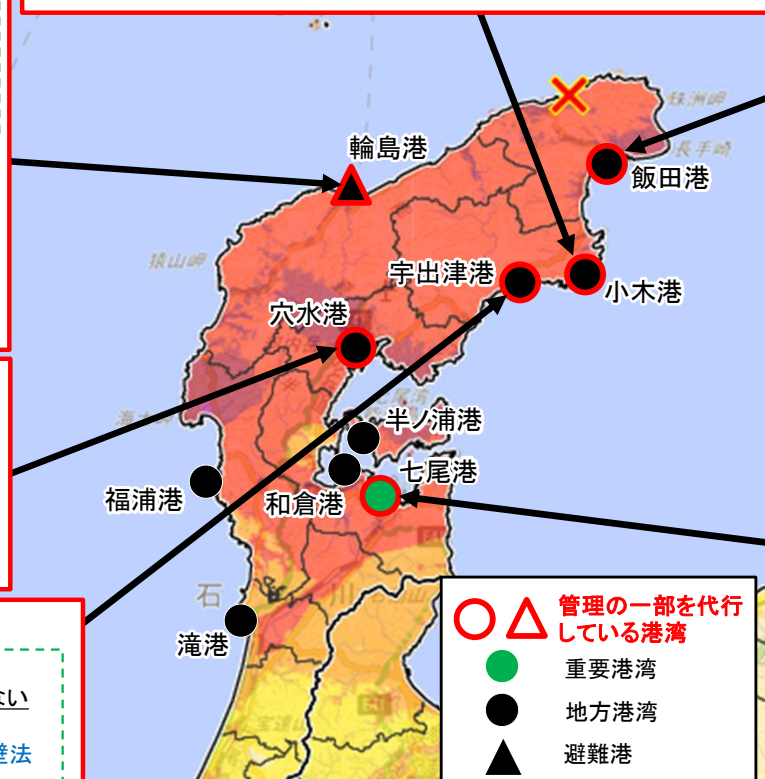
【主な利用条件と対応状況】

- ・岸壁法線に近い位置は重量物を置くことができない。(一般車両は走行可能)
→回復には抜本的な復旧工事が必要であり、岸壁法線の近くに重量物を置かないように運用。

その他の5岸壁は利用不可

→ 抜本的な復旧工事が必要

「はくおう」による休養施設の提供(水深11m岸壁)



令和6年能登半島地震 能登空港の状況



- 発災翌日より、能登空港において救援ヘリコプターの受入れを開始
- また、TEC-FORCEの派遣により、自衛隊固定翼機受入れのための応急復旧や空港運用時間拡大等を支援し、災害救援活動の拠点として機能
- 並行して、民間航空機運航再開のための応急復旧を実施し、1/27より運航再開

昨日の離着陸回数:14回 (1/2~の合計:290回) ※固定翼機、ヘリの合計

これまでの経緯

- 1/2 ・救援ヘリの受入れ開始
- 1/2~ ・空港施設の復旧支援のためTEC-FORCE職員を派遣
- 1/3 ・滑走路の被災状況調査
- 1/4 ・石川県発表
 - ・ 仮復旧を施し、自衛隊機の離発着は数日後に可能となる見込み
 - ・ 民航機が運航可能となるのは早くとも3週間後(1/25)以降の見込み
- 1/9~ ・空港運用の支援のためTEC-FORCE職員を派遣
- 1/10~ ・空港運用時間を拡大
- 1/12~ ・自衛隊固定翼機が離着陸を開始
- 1/27~ ・民間航空機運航再開

全日空の当面の運航計画

※被災前は能登-羽田間を2往復/日 運航

- ・ **1/27より1往復/日 週3日(火・木・土)**にて運航再開
 - 羽田10:30発→能登11:30着、能登13:50発→羽田14:55着

主な被災箇所

ターミナルビル



航空灯火



滑走路



段差10cm以上のひび割れ

15cm程度の窪み

○能登空港
設置管理者:石川県
滑走路:2,000m



1/27 民航機運航時の様子

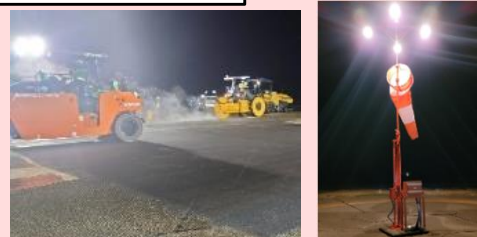


再開初便到着



能登空港出発ロビー

応急復旧の状況



1/12 自衛隊輸送機による物資輸送

